

平素は、本校教育活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、4月17日に、本校6年生54名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果をまとめました。本調査は、国語と算数、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語・算数・理科の3教科共に全国平均を大きく上回る結果となりました。観点別の状況においては「主体的に学習に取り組む態度」を測る問題設定はありませんが、「知識・技能」「思考・判断・表現」についてはいずれも大きく上回っています。このことなどから、全体的には各設問において何が問われているかを正しく読み取り、理解して、適切に解答できていることがうかがえます。日頃から、友達と意見を伝え合う機会を意図的・計画的に設け、お互いの意見の共通点・相違点を見出しながら自分の考えを広げたり、深めたりする学習を積み重ねている表れだと思います。無解答率は、国語・算数・理科ともに非常に少なく、児童が問題に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が育まれています。

国語の結果から

国語の本校正答率は、全国平均正答率よりも約10ポイント上回る結果でした。また、全ての問題において全国平均正答率を上回っており、良好な状況です。しかし、「読むこと」における文章の構成を捉えて筆者の伝えたいことや要旨を把握し読み取ったり、目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることができるかどうかをみる問題では、他の問題と比較するとやや落ち込みが見られます。ただ、全国的にも正答率が高くないため本校児童に限って課題があるわけではありませんが、改善を図りたいと思います。

方策

文章の構成・筆者の主張をつかむ力や、目的に応じて文章と図表を結び付ける力が必要です。段落のごとの役割を考えたり、要点をまとめたりする学習を大切にしていきます。また、文章を「なんとなく読む」から「目的をもって読む」ことに転換していくことができるように、目的意識をもたせた学習を進めていきたいと思います。図表の読み取りや結び付けに関しては、さまざまな資料を結び付ける学習活動を、国語科だけでなく他教科でも進めていきます。

算数の結果から

算数の本校の平均正答率は、全国平均正答率よりも約16ポイント上回る結果でした。また、国語と同様に全ての問題において全国平均正答率を上回っており良好な状況です。中でも、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題解決のために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題は、全国平均より約35ポイント上回る結果でした。しかし、目的に応じて適切なグラフを選択し、言葉や数を用いて記述する問題や、分数の加法について言葉や数を用いて記述する問題において全国平均正答率と同様に他の問題と比較して正答率が低い結果でした。

方策

問題の答えを、根拠を元に言語化することや、分数や小数などの仕組みなどについて理解することが必要です。問題を見せたり、図を見せたりしながら「どのように考えたのか」を説明したり記述したりする学習活動を進めていきたいと思います。また、図を用いて可視化し、分数や小数などについての仕組みへの理解を図っていくことを大切にしていきます。

理科の結果から

理科の本校の平均正答率は、全国平均正答率よりも約14ポイント上回る結果でした。また、全ての問題において全国平均正答率を上回っており良好な状況です。しかし、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかを見る問題では、他の問題と比べ、下回る結果となりました。また、ある条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現をすることができるかどうかをみる問題においても、他の問題を比べると落ち込む結果となっています。どちらも全国的に正答率が高くないため本校児童に限って課題があるわけではありませんが、改善を図りたいと思います。

方策

知識の定着や探究的な思考力を育成する必要があります。知識として覚えるのではなく、実際に触ったり、確かめたりできるように実体験型の授業を大切にしていきます。また、ある問題や条件に対して、共通点や差異点に気づき、「なぜ違うのか」と児童の思考を働かせることができるように授業の流れを大切に進めていきたいと思っています。

児童質問紙調査から

質問「将来の夢や目標をもっていますか」

ほとんどの児童が当てはまると回答している結果となりました。これからも、児童が将来の夢や目標をもてるよう、学校全体として教育を進めていきたいと思っています。

質問「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

半数以上の児童が当てはまる、やや当てはまると回答している結果となりました。昨年度「自分の考えを『伝えたい!』と思える子どもの育成」に取り組んできた成果の表れだと考えられます。今年度もより一層、児童が考えを広げ、深められる学習を進めていきます。

質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

多くの児童が当てはまる、やや当てはまると回答している結果となりました。日ごろから地域の方々が本校の学校教育に協力をしていただいていることで、児童も地域や社会とのつながりを大切にしようとする意識ができているのだと思います。これからも地域とのつながりを大切にした学校教育を進めていきます。

全体を通した本校の成果と課題

今年度本校は、「学びを創造し、共に挑戦する子どもの育成」という学校教育目標のもと、「自分の考えを『伝え合いたい』と思える子どもの育成」を目指し、伝え合うことを通して、考えを広げたり、深めたりできる学習集団を目指して取組を進めています。今回ほとんどの設問で、全国平均を上回ったことから、日々の授業で大切にしている取り組みが積み重ねとなり、成果として表れてきたのではないかと考えます。

しかし、全国平均を上回っているものの児童が正答できなかった解答を分析すると、文章・図や表、グラフなどの情報から目的に応じて必要な情報を読み取ったり、複数の資料を結び付けて考えたりする力、目的に応じて図やグラフ等を選択し、自分の考えをまとめたり、説明したりする力に課題があることがわかりました。これらの力の育成には「伝え合うことを通して、考えを広げたり、深めたりできる学習集団」が関わっており、6年生だけで育つものではありません。今回の結果を基に、学校全体の課題と捉え、6年間の学習を見通した学習活動を進めていきます。また、授業だけではなく、家庭学習や読書タイム、ぐんぐんタイム等、学校の様々な取組と連動させ、ご家庭とも連携して取り組んでいきます。保護者・地域の皆さま方には、今後一層のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。